



【韓国】 総合指数は週間で0.4%高と小幅に続伸、9日の追加利下げに期待

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.4%高と小幅に続伸した。新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、世界的な景気後退懸念と各国の景気対策期待が交錯した。週明け3月30日はほぼ横ばい。翌31日は中国の景況感改善を好感して反発。4月1日は韓国の3月の製造業PMIが2009年1月以来の低水準となったことや貿易統計が急激に悪化したことを嫌気して4%近く下落。2日は原油相場の上昇が材料視されたほか、前日の大幅下落を受けた買い戻しが入って反発。3日はほぼ横ばいだった。新型コロナウイルスの感染拡大に収束の兆しが見えない中、今週も上値の重い展開が続くか。韓国銀行（中央銀行）は3月中旬、米国に追随する形で緊急利下げを行っている。9日に開催する定例会合でも利下げに踏み切るかどうかが目される。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は週間で9.9%高と大幅続伸、今週は原油相場に左右されるか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で9.9%高と大幅続伸。原油相場の急騰を受けてエネルギー株が軒並み急伸し、指数を押し上げた。新型コロナウイルスの世界的大流行が重しとなる場面もあったが、原油相場の急反発が好感された。ブレント原油は1日に前日比8.8%高と5日ぶりに反発すると、2日はトランプ米大統領が「サウジアラビアとロシアは1000万バレル以上の減産で合意するだろう」とツイートしたことを好感し21.0%高と急騰。3日も13.9%高と大幅に3日続伸した。RTS 指数は1日を除く4日間で上昇し、3日は終値で3月11日以来の水準を回復した。エネルギー株は、スルグトネフテガス、ルクオイル、ロスネフチ、ノバテク、タトネフチが2桁高となった。今週も新型コロナウイルス情勢や原油相場をにらんだ展開か。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は0.8%高と4週ぶり反発、今週は都市封鎖の是非が材料に

料に

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.8%高と4週ぶりに反発。政府が主要都市のロックダウン（封鎖）を検討しているとの観測で急落して始まったが、原油高を好感した米国株の上昇が支援となった。先週は2日が雄王記念日で4日間の取引。週明け3月30日は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため首相が主要都市を封鎖する可能性に言及したことで急落したが、1日は金融株の上昇で反発。3日も原油相場の急騰を受けた米国株高を好感し、大幅続伸した。個別では保険のパオバト・ホールディングスが11.3%高と急伸。鉄鋼のホア・ファット・グループ、エネルギーのベトナム石油総公社、不動産のビングループ、金融のベトナム投資開発銀行も上昇し、指数を押し上げた。今週は主要都市の封鎖観測や米国株の動向に左右される展開か。

▼指数チャート



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.7%高、2月の外国人旅行者数は前年同月比 28.9%減

ジャカルタ総合指数は週間で 1.7%高と続伸。3 月月間では 16.8%安。先週は週末の上昇が指数を押し上げた。週初の 30 日は東南アジアで新型コロナウイルスの感染拡大が続いている影響で売られ、指数は終値で前営業日比 2.9%安と 3 日ぶりに反落。31 日は反発したものの、1 日は 2 月の外国人旅行者数が前年同月比 28.9%減少したことが売り材料視された。荒い値動きが続く中、2 日まで一進一退を繰り返したが、3 日は引け際の買いが奏功し、前日比 2.0%高と続伸。約 3 週間ぶりの高値を更新して引けている。今週も感染者数の推移が指数を左右する展開か。10 日はグッドフライデーのため休場となる。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 5.5%安、職場の一時閉鎖決定で 2400 ポイント割れ

ストレーツタイムズ指数は週間で 5.5%安と反落。3 月月間では 17.6%安。先週は週末の反落が下げ幅を広げた。週初の 30 日は金融通貨庁が追加の金融緩和政策を発表したものの買い材料視されず、指数は前営業日比 4.4%安と反落。一方、31 日は中国の 3 月の公式製造業 PMI が 52.0 と前月の 35.7 から急回復した効果で反発した。その後も不安定な値動きが続き、3 日は政府が大半の民間企業の事業所を 7 日から約 1 カ月間閉鎖すると発表した影響で売りが加速。指数は終値で前日から 2.6%下落し、2400 ポイントを割り込んだ。今週は閉鎖開始後の値動きが注目される。10 日はグッドフライデーのため休場。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 3.6%高、原油先物価格の回復が奏功

SET 指数は週間で 3.6%高と 4 週ぶりに反発。3 月月間では 16.0%安。先週は週後半の原油価格回復が奏功した。週初の 30 日は原油価格の急落が嫌気され、指数は終値で 5 営業日ぶりに反落。一方、31 日は 2 月の経常収支の黒字額が 54 億米ドルと前月の 34 億米ドルを上回った効果で前日比 3.5%高と反発した。1 日は再び反落したが、2 日はサウジアラビアとロシアの原油減産合意に対する期待感の高まりを受けた米原油先物価格の値上がりでタイ石油公社 (PTT) などのエネルギー株が買われ、指数は前日比 3.0%上昇。今週は 7 日に 3 月の CPI が発表される予定。6 日はチャクリー記念日のため休場となる。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.9%安、財政赤字増加の見通しを嫌気

クアラルンプール総合指数は週間で 0.9%安と反落。3 月月間では 8.9%安。先週は一進一退の値動きだった。30 日は原油価格の急落に加え、財務相が前週末に今年の財政赤字が GDP の 4%程度に膨らむとの見方を示した影響で、指数は 5 営業日ぶりに反落。31 日は四半期末のお化粧買いで反発したが、1 日は利益確定売りで下落した。2 日は国内の新型コロナウイルスの新規感染が小康状態となった効果で反発すると、3 日の終値も前日からほぼ横ばいだった。3 日発表の 2 月の貿易統計は輸出額が前年同月比 11.8%増、輸入額が 11.3%増と市場予想を上回っている。今週は 10 日に 2 月の鉱工業生産が発表される予定。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。